

研修事例

人材育成

支援先

笠間焼産地

笠間陶芸大学校事業による人材育成



図1 1年生 ろくろ成形課題



図2 2年生 造形課題講評



図3 研究科前期展（前期課題発表会）



図4 学生作品展（全学生）

【内容】

本事業は、陶芸産地の新しい担い手育成及び産地作陶家の課題解決力向上を図る目的で実施しました。

○陶芸産地の新しい担い手育成

陶芸学科（1年生9名、2年生12名）・研究科（3名）は、本年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し実施しました。

表1 各学科の内容

学科	カリキュラム(約200日1,400時間)
陶芸学科 1年生	基礎課題、ろくろ成形課題(図1)、石膏課題、手びねり等成形課題、意匠課題、釉薬調合、焼成実習(ガス・電気・薪等)、各種講座等
陶芸学科 2年生	造形課題(5課題)(図2)、ポートフォリオ課題、各種講座、卒業制作等
研究科	研究課題(前期(図3)・後期)、各種講座、卒業制作等

○産地作陶家向け専門研修

陶芸学科及び研究科課程の他に、陶芸従事者を対象とした技術力向上や課題解決力向上を目的とした専門研修を実施しました。延べ15名が研修を受講しました。

表2 専門研修の科目と内容

科目	内容
成形技術	座学および実習を含む定型カリキュラムによる研修(図5)
釉薬技術	
石膏技術	
焼成技術	
総合	受講者の要望に応じたオーダーメイド型の研修



図5 専門研修（左：釉薬技術、中：総合研修、右：石膏技術）

【研修の成果】

陶芸大学校を卒業した学生は、それぞれ陶芸作家を目指し、地元を中心に独立自営や窯元就業する等、将来の笠間産地を担う人材として大いに期待されています。

専門研修においては、オリジナル釉薬の開発や石膏型を使った新たな製品化等、それぞれが目標とする技術力が向上し、製品化に繋がっています。

○各種展覧会における在校生・卒業生の受賞者一覧（令和3年）

- ・第9回菊池ビエンナーレ展
《入選》 アイザワ リエ（平成29年度研究科卒）
- ・第1回笠間陶芸大賞展
《準大賞》 アイザワ リエ（平成29年度研究科卒）
《入選》 丸山 純（平成30年度研究科卒）
矢次 美保（平成29年度陶芸学科卒）
重本 千尋（平成28年度成形基礎コース卒）
マルヤマ タクヤ（令和元年度 専門研修修了）
- ・第12回国際陶磁器展美濃国際陶磁器コンペティション
《入選（陶芸部門/スタジオ部門）》
矢次 美穂（平成29年度陶芸学科卒）
- ・第55回女流陶芸展
《入選》 市川 佳依（平成29年度研究科卒）
- ・第9回陶美展
《入選》 宮本 果林（平成28年度研究科卒）
山脇 照里（令和3年度陶芸学科2年）（図6）
佐々木 玲美（令和3年度研究科）（図7）
下地 ひとみ（令和3年度研究科）（図8）



図6 現役学生入選作品
陶芸学科2年 山脇照里



図7 現役学生入選作品
研究科 佐々木玲美



図8 現役学生入選作品
研究科 下地ひとみ

基礎となった事業		令和3年度 笠間陶芸大学校事業		
現在の担当グループ	陶芸人材G	グループ長	尾形 尚子	TEL:0296-72-0316
		特命教授	佐藤 雅之	
		特命教授	五味 謙二	
		主任研究員	常世田 茂	
		会計年度職員	根本 達志	
	窯業材料G	会計年度職員	新島 佐知子	
		グループ長	寺門 秀人	
		首席研究員	小島 均	
		主任研究員	吉田 博和	
		主 任	曾我部 雄二	
	フード・ケミカルG			